

二〇〇六年度国文学会彙報

二〇〇六年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会▽ 学生会主催

二〇〇六年四月六日(木) 京田辺校地生協食堂

△国文学会総会・研究発表会・講演会▽

二〇〇六年六月一日(日) 寧靜館5F会議室

●総会

●研究発表会

近世における『源氏物語』の浸透

―伊達紋・袱紗・櫛・簪の雛形本に注目して―

小島由子(本学学部卒業生)

井上靖「嫉捨」論

―せめぎ合う物語―

山田哲久(本学大学院博士課程前期課程)

●講演会

和歌文学研究と情報科学

福田智子(本学専任講師)

△国文学会共催シンポジウム▽

二〇〇六年六月二五日(日) 寒梅館ハーディーホール

二〇〇六年度国文学会彙報

●志村ふくみ・鶴見和子著『いのちをまとう』刊行記念シンポジウム(藤原書店主催)

△国文学会研究発表会・講演会▽

二〇〇六年十一月九日(日) 寧靜館5F会議室

●研究発表会

『法華百座聞書抄』の動詞の表記

―漢字と仮名との選択をめぐる―

窪田恵理奈(本学大学院博士課程後期課程)

梵舜本『沙石集』の性格

―本文比較と笑話構造を端緒として―

加美甲多(本学大学院博士課程後期課程)

●講演会

「錦の美」について

―制作者の立場から―

龍村光峯(日本伝統織物保存研究会理事長)

△同志社国文学▽

第六五号 二〇〇六年二月二日発行

収載論文八編

第六六号 二〇〇七年三月二〇日発行

収載論文十編

△国文学会会報▽ 第三四号 二〇〇七年三月二〇日発行

二〇〇六年度修士論文題目

二〇〇六年度卒業論文題目

『万葉集』における景物としての「雲」

佐野友美

『古事記』における神武天皇出生譚の不在について

——天神御子から天皇への転換点としての

前田笑

『源氏物語』の「語り」と「語り手」

古久保早紀

神武天皇考

『万葉集』における夜から朝にかけての「音」

——家持を中心に——

中川明日佳

『源氏物語』長編性の論理

楠井亜依

『竹取物語』に描かれる古代天皇

鈴木美和子

『長谷雄草紙』の構成と思想

佐々木我夢

『宇津保物語』「俊蔭」の巻の構想

——主に俊蔭一族について——

二階堂彩

古浄瑠璃における子殺しの趣向について

ラウラ・ナポリターナ

『蜻蛉日記』における心的背景

——道綱母と子について——

内田千尋

梶井基次郎「檸檬」論

——一九二〇年代の美術論による「檸檬」

細谷光宏

分析——

李故静

『枕草子』第七段「上に候ふ御猫は」から読

み解く「中関白家の没落」

島貫亮輔

太宰治の『聊齋志異』受容

——「清貧譚」と「竹青」を中心に——

『源氏物語』の夕顔・葵巻の関連性

——六条御息所を中心に——

川邊奈央子

井上靖論

——方法としての〈引用〉——

山田哲久

『源氏物語』若菜巻における六条院とその崩壊

——現実を見ない人々——

小濱なつみ

有吉佐和子の日本舞踊界での活動

——女の舞踊を書く——

水山知春

『源氏物語』における「をこ」

村上満由

『源氏物語』における髪的美

武藤光代

『源氏物語』における明石の君の役割

『源氏物語』母性と子どもから見る六条院

『紫式部日記』

—— 女郎花を巡る紫式部と道長の贈答の意

味——

『更級日記』の方法

—— 夢と物語をめぐる生き方の模索——

『今昔物語集』巻五第十三話の独自性

—— 月の兔の由来譚をめぐる——

『今昔物語集』における継子いじめの独自性

—— 『孝子伝』との比較を通して——

『今昔物語集』「染殿后」考

—— 「記」から「物語」へ——

『今昔物語集』における道成寺説話

『今昔物語集』巻一六第六話を考える

—— 鷹取救済譚をめぐる——

『今昔物語集』小野篁考

『尼、地藏見奉る事』に見られる『宇治拾遺物語』の特異性

『とりかへばや』の主題

—— 主人公の造形——

『今とりかへばや』の主題

—— 「女の物語」との関係から——

白拍子像の形成と実態

平家の公達と能

『看聞日記』における怪異記事

—— 「怪鳥」の記事を中心に——

『花月』における世尽くしをめぐる

—— 中世的思想との関わりから——

能〈定家〉論

酒吞童子という鬼

中世文学における「食」

江戸における昔話の特徴

—— 『もも太郎』『きんたろう』——

『不破』の文様についての考察

—— 一枚刷り・役者絵を中心に——

元禄期のセックスアピール

—— 西鶴作品を中心として——

榎崎悦子

井上美由紀

河北智子

福井ゆりか

中野亮

廣松千里

青木吉史

伊藤あずま

伊藤聡子

坪田早希子

池田由良香

武永真衣

大塚知美

『曾根崎心中』における「観音廻り」考察

小澤 希

—— お初観音説をめぐる ——

『曾根崎心中』の道行における考察

佐野 嘉明

『関八州繫馬』における小蝶の再評価

伴 旭洋

—— 『前太平記』との比較を中心に ——

『仮名手本忠臣蔵』以後の義士劇における加古川本蔵

渡 邊 かよ

『三千世界商往来』

永 田 美保子

—— 大切の大道具演出にみる正三の魅力 ——

近世文芸と古い文化

堅 田 有 紀

—— 『酒吞宝易占』を軸に ——

黄表紙に於ける「未来記」物の方法

岡 根 克 之

—— 恋川春町作・画『無益委記』を中心に ——

江戸期草双紙類桃太郎話における主人公誕生

稲 川 あい

について

—— 黄表紙『桃太郎一代記』を中心に ——

江戸の都市行楽と文芸

柳 澤 久美子

—— 黄表紙『夫京都 見物左衛門』を中心に ——

本居宣長の古典研究

露 口 絢 子

—— 「からごころ」を手掛りに ——

大江親兵衛の初陣

三宅 宏幸

『東海道四谷怪談』におけるお岩の髪梳き

水尾 好伸

声色本の研究

—— 『三芝居役者声色早合点』・『声色独稽

森 島 仁 美

古』を軸に ——

梨園の噂

—— 役者評判絵『俳優四百四病』を軸に ——

木 村 舞

近世の異国趣味

—— 「おらんだ紋」とアルファベット ——

香 西 三葉子

実用の中の美

—— 大小暦と団扇絵 ——

大 森 紀代子

近世小説における武家の男色

—— 反封建と激情 ——

佐 藤 祐 子

近世の異国趣味

—— サボテンを素材とした文芸から ——

竹 内 久 美

草双紙と地口

—— 言語遊戯とその効果 ——

馬 場 千 尋

近世における紋所と文芸

—— 演劇との関係を中心に ——

端 山 亜紀子

『多情多恨』再考

—— 解釈と小栗風葉「寝白粉」との関わり

水谷 純也

『舞姫』

—— なぜ豊太郎は帰東したのか

伊藤 嘉奈子

『夢十夜』

—— 覚めない「夢」

齋藤 明日香

人物を描いた『三四郎』

—— 男女の恋愛を中心に

安西 省

明治四十年に視る「少女病」

—— 「自然主義」という流行病

河村 奈緒美

泉鏡花「女客」論

—— 「私」が語る作品へとつながる作品

信本 隆大

志賀直哉の実母像

或る女

坂本 庸子

—— 衣装描写からみる葉子像

岡村 美香

芥川龍之介「神神の微笑」論

—— 苦悩の所在をめぐって

岩田 昌久

芥川龍之介と児童文学

—— 『白』を中心に

佐藤 あや花

芥川龍之介『白』

—— 白の救世主

丹羽 宏実

芥川龍之介「桃太郎」論

—— 桃太郎観の変遷から見る芥川思想

牧田 悦里

谷崎潤一郎「秘密」と探偵小説との関係

—— 自己劇化させる主人公

前出 隆太郎

夢野久作『ドグラ・マグラ』論

—— 夢の描く光

中澤 佑樹

「阿房列車」論

—— 紀行文としての逸脱

渡辺 杏

「心理試験」における乱歩の心理学考

明智小五郎の変遷

藤原 亜希子

—— 転換の時期とその理由

「伊豆の踊子」

沖 のぞみ

—— 他作品との共通点から見えるもの

『雪国』の構造に隠された舞台性

三好達治「郷愁」論

久世 千絵美

梶井基次郎「檸檬」論

—— レモンのエピソードを追う

小林 正典

『魚服記』論

——スワの変身と水の世界——

前野 恵理子

『魚服記』における自我

松田 美奈

『女の決闘』から見る女語り

——不安を作る言葉、不安を埋める言葉——

岩城 佐和

『人間失格』その構造と仕掛け

——過ぎ去りし昭和——

中西 博子

太宰治『人間失格』

——用いられる視覚的要素の効果——

山本 綾香

林芙美子の『浮雲』論

幸田文『おとうと』の伝えたかったもの

藤田 由布子

『私』の所在

——藤枝静男『田紳有楽』論——

小柳 文

仮面の物語

——三島由紀夫『仮面の告白』——

岡 千尋

三島由紀夫『サーカス』成立考

——ブレ『仮面の告白』への転換——

田中 裕也

三島由紀夫『憂国』論

『五番街夕霧楼』 水上文学の女性像の原点について

奥山 久夫

大江健三郎『性的人間』論

——主体的な《生》を求めて——

北山 敏秀

『白い人』

——その背景——

森 哲也

『悪』のゆくえ

——遠藤周作『スキヤングル』から『深い河』にかけての変化——

岸本 甫

司馬遼太郎『竜馬がゆく』論

——史実と竜馬像について——

仁尾 直樹

『片腕』における幼児の幻想

——澁澤龍彦周辺と人形愛を軸に——

田島 美波

有吉佐和子『針女』

——清子と弘一を引き裂いたもの——

本田 麗子

寺山修司『レミング』——世界の涯まで連れて

って——』における“集団”と“個”

海野 沙衣

『星々の悲しみ』論

——宮本輝の物語——

藤谷 真

文学と競馬の繋がり

——宮本輝『優駿』を中心にして——

佐野 健

『羊をめぐる冒険』冒頭部分の考察

萩原正己

——〈誰とでも寝る女の子〉の解釈から——

村上春樹の『世界の終わり』とハードボイル

ド・ワンダーランド』の考察

後藤崇之

——二つの世界の登場人物からみる「世界

の終わり」世界の成り立ち——

村上春樹『神の子』もたちはみな踊る』

——心理療法としての物語とフィクション
の利用——

江藤友亮

『ベッドタイムアイズ』の特徴的な事柄について

桑野好絵

山田詠美論

——『ぼくは勉強ができない』を中心に——

時代を走る火車

中西智佐乃

——推理小説としての『火車』と時代——

宮部みゆき『霊験お初捕物控』論

——根岸鎮衛『耳袋』との比較——

『後宮小説』

——ファンタジーとジェンダーの視点から——

江國香織「きらきらひかる」論

小関律子

——絶望とともに生きる——

吉本ばなな『キッチン』におけるジェンダー感

——「えり子」「みかげ」「雄一」をめぐる
河合翠

て——

吉本ばなな『FLUGUM』における型と特徴

本多孝好『真夜中の五分前 five minutes to
tomorrow』論

tomorrow』論

——『MISSING』から『真夜中の五分前
five minutes to tomorrow』まで——

小山紘範

北斗七星の語彙史

「桜咲く」万葉集から「桜散る」古今和歌集へ

中世国語史料「日蓮の遺文」の漢語サ変動詞

——消息文を資料として——

日葡辞書の感動詞

『クリスマス・カロール』における翻訳文体の研究

岡 絵里花

村上龍と村上春樹の文体に関する研究

衛藤 紗由美

長野まゆみ作品におけるカタカナ語表現

児童文学における感動詞

——登場人物の属性による差異について——

寺嶋 信太郎

人が名前を複数持つ意義

黒田 麻衣

楽茶碗の銘と由来

長嶋 恭子

——赤茶碗と黒茶碗の違いについて——

京都府飲食店舗名の特徴

齋藤 侑里

——表記・音韻に関する一考察——

日本人の名前

渋谷 智世

——兄弟・親子間の共通点を中心に——

河童の異称について

高杉 直起

小学校教科書の漢字について

山上 貴子

化粧用品広告における漢字

武田 芳子

化粧用品広告の用語の変遷

——『婦人画報』1950年と2005年
高橋 悦子

を比較する——

自動車広告の文章表現の変化

近藤 大介

——各種文字含有率とレトリックを中心に——

複合名詞の語構成について

吉道 さゆり

——女性雑誌広告のコピーにおける分析——

女子中学生対象の雑誌における非外来語のカタカナ表記

坂田 有理香

漫画にみる擬音語・擬態語について

吉田 行男

会話におけるオノマトペ

小林 真季

——ジェスチャーとの関わりに注目して——

押韻に関する一考察

富田 真梨奈

——日本語ラップの歌詞を用いて——

手話言語における新語の造語法

阿部 早也香

——『新しい手話』を用いて——

ラジオCMにおけるレトリックの変遷

土井 麻貴

沖縄若者方言考

——沖縄本島の高校生・大学生のアンケート——
稲福 綾乃

ト調査を中心に——

文芸作品における方言使用の実情

三谷 直哉

奈良県方言「おとろしい」の現状 2005—2006

南 亜希

巨大掲示板「2ちゃんねる」にみられる特徴

的な表現について

小沼 恵理子

——独自の言語文化とその流行——

ネットワールドにおけるコミュニケーション

(日本語)の特徴と男女差

顔文字の使用実態

——若者の携帯メールにおける男女間の相 幸 重 優

違——

藪内麻紀